

## 宮崎市周辺の多言語表示について — 居住と観光の観点から —

藤井久美子\* 衛藤利絵\*\* 永射紀子\*\*

**Linguistic landscape of Miyazaki City and Its Outskirts:  
A Study from the Viewpoints of Residents and Visitors**

**FUJII Kumiko\*, ETO Rie\*\*, and NAGAI Noriko\*\***

### 1. はじめに

日本社会の多民族化や多言語化は近年の現象というわけではないにも関わらず、最近、これらについて論じられることが多くなった。これまで無視してきた、あるいは意識されなかった、こうした状況が、「国際化」や「共生」ということばとともに語られるようになったのである<sup>1</sup>。それに伴い、多民族化、多言語化を言語景観の観点から明らかにする研究も始まった。但し、研究対象となるのは、東京や大阪など、外国人居住者の多い大都市圏である<sup>2</sup>。外国人が少ない地方都市を研究対象としたものは管見の限りまだない。

著者の住む宮崎県は、平成19年12月末現在の外国人登録者数が4,100人で、前年と比較して約3.8%の減少となっている<sup>3</sup>。日本全国の外国人登録者数が、平成18年12月末現在、過去最高の2,084,919人(前年比3.6%増)であることから、国内に居住する外国人のうち、約0.2%が宮崎県に住んでいる計算になる。県内の状況をさらに詳細にみると、登録者数が最も多いのは中国籍の1,781人(前年比122名減)で、次いで韓国又は朝鮮籍の635人(同23名減)、その後はフィリピン籍、インドネシア籍、米国籍と続き、これら上位5カ国で全体の85.3%を占めている。なお、県内には67の国籍(無国籍含む)の外国人が住んでいる。

県庁所在地である宮崎市については、平成19年12月現在の登録外国人数は1,433人であり、内訳は、中国籍533人、韓国又は朝鮮籍335人、米国籍95人、フィリピン87人、ブラジル41人、オーストラリア38人、英国37人となっていて、県内の約3分の1の外国人が宮崎市に住む。同時期の宮崎市の人口が約37万人であることから、登録外国人の占める人口比は0.3%である。

宮崎市周辺を訪れる外国人観光客数については明確なデータはない。ただ、いくつか、参考となりうる数字を挙げておくと、まず、宮崎空港の国際線利用者数は平成18年度で72,330人である<sup>4</sup>。次に、法務省「出入国管理統計」では、日本人出国者のうち住所地を宮崎県に有する

---

\*宮崎大学教育文化学部

\*\*宮崎大学大学院教育学研究科日本語支援教育専修

者の人数は、平成 18 年度で 56,366 人である。ちなみに、この年に日本に入国した外国人は 810 万人である<sup>5)</sup>。

以上のことから、宮崎市周辺地域は大都市圏と比較すると相対的に外国人が少ない地域であるといえる。そこで、本稿は、言語景観に関する先行研究が取り上げてこなかった外国人の少ない地方都市の一つとして宮崎市周辺を取り上げ、地方の多民族化・多言語化の状況を明らかにするために、まずは前段階として言語景観を分析、考察することを目指した。方法としては、宮崎市内及び周辺地域の中から、居住者や観光客が多数訪れる地点をいくつか選び、市内中心部にある公共交通機関の起点からそれらの場所にまで行く（さらには観光する）場合に見られる多言語表示を、その有無も含めて調査することとした。具体的な調査対象箇所は、日常生活での利用頻度が高いと考えられる場所 3 箇所（市役所・ショッピングセンター・大学病院）と、観光目的で訪問されることが多いと思われる観光名所 3 箇所（青島・綾・鶴戸神宮）である。生活と観光という対象者を異にする地点の言語表示を検討することで、多言語状況に差がみられるかどうかについても明らかにしたいと考えている。

## 2. 主要交通機関の起点における多言語表示の現状

### 2.1 宮崎駅（JR・バスセンター）

宮崎駅は、宮崎県の県庁所在地である宮崎市を代表する駅であり、日豊本線、日南線、宮崎空港線の停車駅となっている。一日の平均乗車客数は 4,822 人であるが、福岡、長崎、熊本、鹿児島へ向かうバスのりばもあり、外国人を含め、観光客が利用する機会は多いと思われる。

宮崎を走る電車は、上記 3 路線のみであり、電車で行ける場所は非常に限られている。今回調査対象である、市役所、イオン、大学病院、青島、綾、鶴戸神宮の中で、電車で行くことができるのは青島のみである。鶴戸神宮も可能であるが、最寄り駅から約 10 キロ離れているため、バスの利用が主となる。

宮崎駅のバス停は、西口に 1～3 番のりばと高速バスのりば、東口にイオン直通的のシャトルバスのりばがある。また、駅前の大通りを渡ったところに宮崎駅前バスセンターがあり、そこから出発するバスもある。

#### <市役所へ行く場合>

宮崎駅から市役所へは 1 番のりばから出るバスで行くことができる。そこから出るバスは複数あるが、ほとんどが市役所近くのバス停に止まる。市役所へ行く際に外国人にとって問題となる点は、①何番のバスのりばから市役所行きのバスが出るか調べること、②市役所最寄りのバス停は「橋通 1 丁目」で、「市役所」という名前が入っていないことであると思われるため、この 2 点について調査した。

まず①についてだが、各のりばには、そこに発着するバスの路線図が掲示してある。それを見れば、どのバスのりばで待てばいいかがわかるが、路線図は日本語のみで、ふり仮名はなかった。②については、市役所の最寄りのバス停は「橋通 1 丁目」であるという案内は、日本語でも見当たらなかった。つまり、例えば路線図が読めても、「橋通 1 丁目」で降りることを知らなければ、市役所への行き方はわからないということになる。日本人にとっても、人に聞かなければわからないという結果になった。

#### <イオンモール宮崎へ行く場合>

イオンモール宮崎へは、東口から出る直通のシャトルバスに乗ればよい。バスのりばにはイオン行きのバスのみが発着するため、そこに着きさえすれば、イオンに行くことができる。しかし問題となる点は、そのバスのりばが、その他のバスのりばがある西口とは逆の東口にあることである。

まず、駅構内の東口でバスのりばへ案内する看板を見つけることができる。それに従って行くと、幾つかバスのりばへ案内する看板があり、バスのりばに行くことができるが、すべて日本語のみの看板で、「AEON」というアルファベット表記もなかった(2.1-(1))。また、西口の1番バスのりばに、イオン行きのバスのりばへの行き方を案内する地図があったが、それも日本語のみだった(2.1-(2))。カタカナで「イオン」を読むことができれば、外国人にとってもそれほど難しくはないだろうが、そうでなければわからないだろうと思われる。

#### <大学病院へ行く場合>

大学病院へは市役所へ行く場合と同じく1番のりばからバスが出る。大学病院へ行くバスは「大学病院・宮崎大学」行き1本のみである。大学病院へ行く際の問題点は、①どのバスのりばからバスが出るか、②どのバスに乗れば目的地に行けるかを見つけることだと思われる。

①については、市役所へ行く場合と同じく、路線図を見れば1番のりばで待てばいいことがわかる。②についても、やはり路線図を見ればわかるだろう。また、「大学病院・宮崎大学」と行き先がバスにも明記されているため、日本人にはわかりやすい。しかし、やはり路線図もバスも日本語表記のみで、ふり仮名はない。また、時刻表も日本語表記のみなので、どこが自分の乗るバスの時刻表なのか、わかりづらい(2.1-(3))。

#### <青島へ行く場合>

青島へは電車とバス2通りの行き方がある。電車で行く場合、宮崎駅から日南線に乗り、青島駅で降りる。その際問題となる点は、①料金はいくらか、②どのように切符を買うか、③何番線に行くかを見つけることである。

①の料金については、券売機の上や横に運賃表があった。上の運賃表は日本語と英語の二言語表示だった(2.1-(4))。また、横の運賃表は日本語と英語の二言語表示で、漢字の上にひらがなで読みも書かれている(2.1-(5))。②の切符の買い方については、券売機の横に券売機の使い方や、券売機で買えない切符の説明などの案内が、英語のみで書かれていた。(2.1-(6))ただ、青島駅は無人駅のため、往復切符を買っておく方が便利である。そのことについての案内は、日本語のみの表示だった(2.1-(7))。また、券売機には料金の上に駅名も書かれているが、それも日本語のみだった。料金をあらかじめ調べておけば、駅名がわからなくても問題ないと思われるが、多少、外国人が不安を抱く要素となるかもしれない。③については、改札前の電光掲示板横に日本語と英語で「宮崎空港・青島・志布志方面」と表記されていた(2.1-(8))。ただし、問題がある。宮崎空港行きに乗ってしまうと青島駅には行かないということだ。路線図を見れば宮崎空港行きは青島へ行かないことがわかるが(2.1-(9))、路線図は切符売り場にしかないため、電光掲示板横の表示を見て宮崎空港行きと青島行きは同じ電車だと勘違いし、間違っただけで空港行きに乗ってしまう可能性がある。また、プラットフォームにも電光掲示板があり、電車が来る時間と行き先が日本語と英語、交代で表示されるようになっている。しかし、日南線には志布志、油津、南郷が終点となる電車が存在し、掲示板に表示されるのは終点のみである。どれに乗っても青島へ行くことができるが、路線図がなければわからない。電光掲示板で電車の行き先はわかっても、プラットフォームでは、それが青島に止まるかどうか確かめ

ようがないため、不便だと思われる。

バスで行く場合、宮崎駅前バスセンターから、「青島」行き、「折生迫」行き、または「日南・飢肥」行きに乗る方法がある。その際に問題となる点は、①宮崎駅のバスのりばには青島へ行くバスは来ないこと、②宮崎駅前バスセンターを探さなければいけないこと、③どのバスに乗れば目的地へ行けるかを調べなければいけないことである。

①と②については、宮崎駅バス停の1番のりばに、宮崎駅前バスセンターまでの地図があった。それを見れば、青島に行く場合はそこからバスに乗らなければいけないことがわかるが、案内も地図も、日本語表記のみだった(2.1-(10))。また、バスセンターは、一見普通の建物で、バスが止まっているのが見えない場合、気づきにくい。建物の窓に「日南・青島・空港方面のりば」と貼ってあるが、日本語のみである(2.1-(11))。③については、バスセンター内に路線図、時刻表があり、それを見ればある程度わかるようになっているが、それもすべて日本語表記のみだった。観光地などにはイラストも横についているが、イラストだけで青島と理解するのは不可能である(2.1-(12))。なお、のりばについては1箇所しかないので、バスに表示されている行き先を見て乗る。やはりそれも日本語表記のみだった。

<綾へ行く場合>

宮崎駅から綾へ行くバスはあるが、本数が少ない上、他の場所を経由するため、時間もかかる。そのため、宮交シティ発綾行きのバスを利用するのが一番便利である。宮崎駅から徒歩10分のところに宮交シティ発綾行きのバスが止まるバス停があるため、宮崎駅に来てしまった場合でもそこから乗ることができる。以上のことから、宮崎駅のバスのりば等に宮交シティ発のバスの案内はあるか、調査した。しかし、どのバスのりばでも、案内を見つけることはできなかった。1番のりばからは、「高岡温泉・綾」行きのバスが出るが、そこにもなかった。もしすぐバスが来ればいいが、バスのりばへ行った時間によっては2時間近く待つ場合もある。宮交シティ発のバスの案内があると、便利ではないかと思われる。

<鶴戸神宮へ行く場合>

鶴戸神宮へ行くには、バスで行く方法が一番便利である。前述した通り、電車で行く方法もあるが、最寄り駅の伊比井駅から約10キロ離れているため、今回の調査からは外した。

バスで行くには、宮崎駅前バスセンターから、「日南・飢肥」行きに乗り、「鶴戸神宮入口」で降りる方法がある。問題となる点は、青島へバスで行く場合と同様に、①宮崎駅のバスのりばには鶴戸神宮へ行くバスは来ないこと、②宮崎駅前バスセンターを探さなければならないこと、③どのバスに乗れば目的地へ行けるかを調べなければならないことである。調査結果は上記の通りであるが、青島へ行く場合と違う点は、1番のりばにあるバスセンターまでの地図に「鶴戸神宮」と書かれていないことである。鶴戸神宮に行くには「日南・飢肥」行きに乗ればいいことが事前にわかっていたらよいが、わからない場合は日本人にとってもわかりにくい。バスセンターの路線図を見れば、どのバスに乗ればいいかがわかるが、前述した通り、日本語表記のみである。

上述の通り、表示だけで各場所へ行くのは非常に難しいことがわかった。しかし、宮崎駅には構内に観光案内所がある。そこへ行けば、表に主要観光地への行き方や所要時間、裏には宮崎市内の地図が印刷された紙をもらうことができる。これには、日本語と英語・日本語と韓国語・日本語と中国語(簡体字)で書かれたものがある。綾へ行く場合、宮崎駅発より宮交シティ発のバスが便利であると前に述べたが、印刷された紙には宮崎駅発のバスではなく、宮交シティ

発のバスのみが案内されている。また、カウンターの横に、宮崎駅、宮崎駅前バスセンターのバスのりばの案内図や、宮崎県内の各観光地へ行くバスの時刻表があったが日本語のみだった(2.1-(13)、2.1-(14))。しかし、係員が待機しているため、例えば日本語がわからなくても行き先さえ伝えて、何かしらの説明をしてもらえればかなり違うのではないかと思う。また、主要観光地への行き方の紙に市役所、イオン、大学病院の行き方は載っていないが、そこで聞けばなんらかの情報が得られるのではないかと思われる。

## 2.2 宮交シティの状況

宮崎市とその周辺を運行しているバスが必ず経由する地点、それが「宮交シティ」である。通常、宮交シティというと、スーパーマーケット、複合型ショッピングセンターの宮交シティと、宮崎交通が運営するバスセンターの総称として使われることが多い。そのため、宮崎市大淀四丁目にある施設一帯を、多くの人が宮交シティとして認識している。この宮交シティにあるバスセンターは、福岡をはじめとする高速バスの発着点でもあり、もう一つの主要ターミナルである宮崎駅前バスセンターと比較しても規模が大きいため、実質的にバス運行の中核と捉えることができる。しかし、宮交シティバスセンターという呼称は、高速バス発着点としての認識度が高く、近距離路線バスのターミナルは、このバスセンターとは認識を別にし、バス停自体は「宮交シティ」という呼称で浸透している。本稿は、宮崎市及びその近郊の近距離路線バス運行地域を中心に調査したものであるため、「宮交シティ」における多言語表示について調査する。

のりば案内については、高速バス発着所、ショッピングセンター出入口、そして市内路線バス、郊外行き路線バス発着所にそれぞれ設置されている(2.2-(1)、2.2-(2))。のりば案内表示は日英2言語表記だが、文字も小さく、ガラスが光を反射することもあり、非常に確認しづらい状況である。続いて各のりばへ行くための案内表示については、高速バス発着所の天井から吊り下げられている看板で確認することができる(2.2-(3)、2.2-(4))。以下、この表示を確認したと仮定して、市内路線、郊外路線への誘導表示について、その利便性について考察する。

### <市内路線>

宮交シティ南側にある市内路線のりばは、誘導表示に従って進む以外にも、ショッピングセンターの正面入口と同じ位置にあるため、比較的容易にたどり着ける。バス停の表示に関しては、天井吊り下げ型の路線案内表示(2.2-(5))に加えて、地上に設置されたバス停の2種類がある(2.2-(6))。天井吊り下げ型の表示は、日英韓の3言語表記であるが、地上バス停は日英の2言語のみである。天井、地上ともほぼ同位置に設置されているが(2.2-(7))、その二つが同じものであると気づくには多少時間を要するかもしれない。のりば全体の印象について言及すれば、路線バス沿線の上のほとんどのバス停表示が日本語表記のみであり、宮交シティのように最低でも日英2言語、それに加えて韓国語表記が確認できたことは、珍しい状況であると考えられる。

本稿の調査対象である綾やイオンショッピングセンター行きバス停は、案内表示から容易にのりば位置を確認できる。一方、宮崎市役所行きの案内表示はなく、バス利用前に利用者自らが降車バス停を確認する必要がある。

### <南部郊外路線>

郊外路線のりばは、市内路線と違い施設から若干離れた場所にある。そのため、のりばへ誘

導するための表示が重要となる。高速バス発着所にある誘導表示に従い、施設西側へ回ると、県北方面から到着するバスのおりばから、バス待機場を隔てた先に南部郊外路線のりばを確認できる(2.2-(8))。しかし、バス停や待機場を横断し、のりばへ移動することは事故防止の観点から禁止されており(2.2-(9))、利用者は上方にある陸橋を渡って移動しなければならない。そこで陸橋へ行くための表示を探し施設沿い通路前方へ視線を向けると、16、17、18番のりばへの誘導表示をすぐに確認することができる(2.2-(10))。表示によると、のりばへ向かうには矢印方向の階段を利用すればよいことがわかる。指示された階段横にも最初に確認した表示と同じものがあるが(2.2-(11))、この表示は階段出口踊り場までの短い区間に、さらに2箇所も設置されていることがわかった。一方、階段出口踊り場からのりばへ下りる階段までの間には案内表示はなく(2.2-(12))、表示配置のバランスの悪さが印象に残る。実際には、その踊り場から数メートル先の通路両側に、のりばへの誘導表示が見える(2.2-(13)、2.2-(14))のだが、それを知らない利用者にとっては、日本人であっても行き先に不安を覚えるのではないだろうか。ちなみに、郊外路線のりばまでの誘導表示は、全て日本語で表記されており、量的には充実しているが言語面においては情報量の不足は否めず、外国人利用者にはわかりづらい状況ということが判明した。

のりば自体の表示に関しては、市内路線のりばと同仕様のバス停が設置されており(2.2-(15))、使用言語も日英2言語での表記であった。しかし、ここには市内路線のりばに見られた天井吊り下げ型表示はないため(2.2-(16))、韓国語による表記もなく、言語における情報は少なくなっている。以上の内容から、郊外路線のりばは位置的に分かりづらい場所にあるだけでなく、誘導表示等のほとんどが日本語のみで表記されており、外国人利用者の利便性は低い状況であることがわかる。本稿の調査対象である大学病院、青島、日南(鶴戸神宮)行き路線バスは、この郊外路線バスのりばから乗車することになるが、まずはのりばへたどり着くことが重要であるといえる。

### 3. 日常生活の場での多言語表示

#### 3.1 宮崎市役所

宮崎市役所は、宮崎市民であれば何らかの形で利用することが考えられる場所である。宮崎市役所への最寄りバス停は、宮崎駅方面、宮交シティ方面とも「橘通1丁目」である。ここではまず、バス停で降車した地点から市役所への動線を観察し、続いて市役所内の言語表示について述べていく。

宮崎駅方面から市役所へ向かう場合、橘通り東側のバス停で降車となる(3.1-(1))。ここに降り立つと、道路を挟み右手前方に宮崎市役所を確認できる。一方、宮交シティ方面からは反対の西側バス停で降車となるが、東側バス停よりも若干北側に位置していることに加え、後方に建築物が林立しているため、市役所はすぐには確認できない位置にある(3.1-(2))。さらに、バス停周辺には市役所の位置を示す案内表示がないため、どこに市役所があるのかわからない。唯一誘導表示と認識できるものは、市役所前交差点信号に付設されている「市役所前」の表示のみである(3.1-(3)、3.1-(4))。使用言語は日英2言語表記で分かりやすいが、それだけでは市役所の位置を確認することは難しいだろう。道路標識以外の誘導表示が設置されていないか、周囲を見渡してみるが、それらしきものは確認できなかった。結局、宮崎市役所利用者について

ては、施設の場所は既知のものとして考えられていると推測できる。

宮崎市役所敷地内には、市役所本庁舎の側に宮崎市民プラザ（オルブライトホール）も併設されており、その建物の姿からどちらが本庁舎であるか、案内表示がなければ判断しづらい（3.1-(5) 宮崎市役所、3.1-(6) 宮崎市民プラザ）。そこで周辺を探したところ、市民プラザ入口に大きな案内板が設置されていた（3.1-(7)）。これは日英2言語で表記されており（3.1-(8)）、建物に番号を振り、その番号の横に名称が記載されているので分かりやすい。これにより施設の位置は確認できるが、実際に建物のある位置に移動してみると、建物に刻まれた名称は日本語のみであった。例えば市役所本庁舎（3.1-(9)）には「宮崎市役所」、第二・第三庁舎も同様に庁舎名が日本語でのみ表記されていた。但し、本庁舎では正面玄関横、第二・第三庁舎では駐車場内に日英2言語表記の案内板があるので（3.1-(10)）、多少の情報量不足は解消されているのかもしれない。

### 3.2 イオンモール宮崎

イオンモール宮崎は、2005年に大型ショッピングセンターとして開店した。宮崎県内において最大規模のショッピングセンターであり、多くの人が訪れる場所である。

バス停はイオンモール宮崎構内にあり、宮崎駅から来るバスも、宮交シティから来るバスも、同じバス停に止まる。イオンモール宮崎から宮崎駅、宮交シティへ向かうバスも、同じバス停から出発する。外国人にとって問題となることは、帰る時どのバスに乗るかを調べることでありと思われるため、その点について調査した。

まず、のりばが一つであるため、バスの行き先の表示によって判断するしかないが、表示は日本語のみだった。また、時刻表などもすべて日本語表記だった（3.2-(1)）。なお、そのバス停には、宮崎市を走るバスの路線図があったが、日本語のみだったため、このバス停に発着するバスはこんなにたくさんあると勘違いしてしまう外国人もいるかもしれない（3.2-(2)）。なお、イオンモール宮崎は、2007年9月に「イオン宮崎ショッピングセンター」から現在の名称に変わった。しかし、バス停、バスの行き先は「イオン宮崎SC」「イオン宮崎SC行き」のままであった（3.2-(3)）。宮崎に住む人にとって、「イオン」と言えばこのショッピングセンターを指すため、あまり問題はないかもしれないが、観光客や外国人が誤解をする可能性は完全には否定できない。

### 3.3 大学病院

「大学病院」の正式名称は宮崎大学医学部附属病院である。地域では「大学病院」という名称で知られ、バス停の名称も「大学病院」である。元は宮崎医科大学医学部附属であったが、2003年10月に宮崎大学と統合して宮崎大学医学部附属となった。県内には大規模な医療機関が少ないことから、地域の基幹病院としての役割を果たし、また、専門性の高い治療が必要な患者に対して高度な医療を提供する場として知られている。こうしたことから、住民が日常的に通う身近な病院ではないが、地域の医療機関を代表する存在として今回は調査対象に取り上げた。

宮交シティから来たバスは「大学病院」というバス停に停車する（3.3-(1)）。バス停は病院の正面玄関のすぐ前にあることから、下りるのも乗るのも非常にわかりやすい。病院入り口までたどり着くのも容易であろう（3.3-(2)）。問題となるのは帰路である。バスは「宮崎駅」行

ぎを中心に多くの本数が出ている。それに対して、「宮交シティ」行きというのは非常に少ない(3.3-(3))。「宮崎駅」行きは「宮交シティ」を通過するので、このことを知っていれば「宮崎駅」行きに乗車すればよい。これは「路線案内図」でも確認できる(3.3-(4))。しかし、これらの表示は全て日本語のみで、ふり仮名も見られない。したがって、外国人にとっては帰路が問題となりうる。「大学病院」バス停付近で見られる日本語以外の表示は、バス停ベンチにある「禁煙 (NO SMOKING)」の文字とピクトグラムだけであった(3.3-(5))。

#### 4. 観光の場での多言語表示

##### 4.1 青島周辺

青島周辺は青島リゾートと呼ばれ、こどものくにや海水浴場も含めて県内でも有数の観光地であるが、観光客が主に訪れるのは、青島(島内の青島神社を含む)と隣接する県立青島亜熱帯植物園である。

この青島は、本稿で取り上げた6箇所の調査地の中で唯一、路線バスに加えて電車でも行くことのできる場所である。そこで、まずは電車を利用した場合について述べ、その後、バス停からの道と合流した後は、青島までの表示の状況について明らかにしておく。

青島に行くのに宮崎駅から電車を利用したとすれば、降車駅は青島である。2.1で述べたように、青島駅は無人駅である。そこで、降車後は表示だけが頼りとなる。まず、プラットフォームには名所案内の看板がある(4.1-(1))。「青島 天然記念物 東1キロメートル 徒歩10分」と書かれているが、これは日本語のみである。無人の改札を出たところには時刻表などが掲示されているが、これらも、時刻表に英語で駅名としての「Aoshima Station」と行き先欄に「for…」と書かれている以外は全て日本語によるものである(4.1-(2))。その中に「当駅は無人駅です」と書かれたポスターがあり、青島駅からの電車の乗り方が示してあるがこれも日本語のみで、日本語のできない外国人には理解不能であろう(4.1-(3))。宮崎駅には往復切符を買うことを勧める表示はあったが、日本語だけで書かれていたことから、外国人が片道切符で来たとすれば、帰りには困難や不安が生じるであろう。帰りに利用するプラットフォームが、下りた向かい側にあるフォームであることも考えると、外国人にとっては非常に利用しづらい環境にある。駅にはトイレがあるが、そこには「LAVATORY」と英語の表示がある(4.1-(4))。

次に、駅を出て青島を目指すことにする。駅前の広場にはいくつか地図があり、その中の1つでは英語による表示も見られる。現在地に「Present Site」という英語が併記され、青島島内にある青島神社も「Aoshima Shrine」と表示されている(4.1-(5)、4.1-(6))。漠然とではあるが、駅と青島とが離れていること、駅から青島までのおおよその方角などがわかる。道筋には「青島神社 800m」と書かれた看板もあるが日本語だけである(4.1-(7))。しばらく歩いていくと、バスの通る国道220号線に出る。国道沿いには、市内中心部でも見られるような通りの名を示す日本語英語の2言語標識があるが、歩道橋などもあって青島がどちらの方角にあるのかはわかりにくい。歩道橋の側面に方向を示す矢印と「青島入口」と書かれていることから、日本語がわかればかろうじて正しい方向がつかめるが、日本人でも初めて訪れたとすればわかりにくい表示であろう。宮崎駅前や宮交シティから来たバスは国道沿いのバス停に停車する(4.1-(8))。バス停の表示は、バス停の名前や時刻表も全て日本語である。国道を越えると、国道の東側にある青島までは電車、バスいずれを利用した場合でも、青島参道を通っていくこ



とになる。青島参道の途中にある売店の前にある「ご当地ピンズ」のポスターには、英語とハンゲルが見られた。但し、これは各地の観光地で見られるお土産とポスターなので、青島独自のものとは言えない。とはいえ、青島周辺で最初に見られる英語以外の表示である(4.1-(9))。参道をさらに進むと左手に、日本語に加えて、英語、ハンゲル、中国語(簡体字)でも一部地名などが書かれた大きな観光案内の看板が目に入る(4.1-(10))。観光名所の説明も載っているが、それは日本語と英語のみである。その後、目を引くのは、砂浜が始まってすぐの箇所に立つ宮崎市教育委員会による4言語(日本語、英語、中国語(簡体字))表示による看板2枚である。1枚には「青島の文化財」について説明がなされている。もう1枚には禁煙と岩石・植物の採取を禁じる内容が書かれている。4言語ともほぼ同じ内容となっている。その後は、境内に入るまで日本語以外の表示や説明はない(4.1-(11)、4.1-(12))。

このようにして境内にたどり着くが、以下では境内の様子についても簡単に紹介しておく。境内に入ると、左手に、日本語に加えて英語で青島神社と周辺について解説した看板が掲げられている(4.1-(13)、4.1-(14))。参拝の仕方なども日本語では紹介されているが、他の外国語によるものは見当たらない。他には、無料で配布されるパンフレットが置かれた台の上に、「Free」と書かれたのを見つけただけであった(4.1-(15))。

青島ということばは、島そのものを指すだけでなく、周辺地域を含む地名としても用いられている。そこで、青島観光では、参道脇の県立亜熱帯植物園も紹介されることが多い。参道脇の看板を見ると、植物園の名称として「Aoshima subtropical botanical garden」<sup>6</sup>という英語による表示はあるが、無料であることを示す外国語表示はなく(4.1-(16))、したがって、日本語の「無料」ということばを知らなければ、外国人は入場するかどうかを躊躇する可能性がある。以上の様子から、青島周辺では、宮崎市教育委員会による2枚の看板が多言語表示の象徴的存在であるといえる。

## 4.2 綾町周辺

綾町は、宮崎市に隣接し、観光名所として有名な町である。綾城、照葉大吊橋、酒泉の杜など多くの観光スポットがあるだけでなく、陶芸・織物・木工などの伝統工芸などでも知られ、多くの観光客が訪れている。

綾町周辺にはバスでしか行けないことはすでに述べたとおりであるが、そのバスには、「宮交シティ」を出発し「綾待合所」を通って「酒泉の杜」まで行くものと、「綾待合所」までのものがある。綾城やその他の観光スポットへ行く時は「綾待合所」で降りるため、「綾待合所」周辺を調査した。「綾待合所」は、綾町役場の近くに位置し、建物内には発券カウンター、椅子など、外にはバスの停留所、タクシーの待機所がある。

外国人にとって問題となる点は、①バス停から各観光スポットへ行く方法を調べること、②帰路はどのバスに乗ればいいのか調べることだと思われる。①については、バス停周辺には、各観光地への道すじを案内する標識は見当たらない。観光案内所が近くにあるのだが、道路から少し奥まったところにあり、街路樹に隠れているため教えてもらわなければまずわからない。場所がわかったとしても、建物には日本語で「綾町産業観光案内所」と書いてあり、ピクトグラムもなかった。また、アイスクリームなどのお店も兼ねているため、観光案内所だとわかりにくい(4.2-(1))。綾城までは歩いて約15分かかり、照葉大吊橋まではタクシーで行かなければならないのだが、観光案内のパンフレットはすべて日本語表記のみだったので、外国人には

わかりにくいのではないかと思われる。綾城までの道には途中、方向を指示する標識があったが、これは日本語と英語の二言語表記だった(4.2-(2))。ただ、バス停からすぐ右に曲がらなければいけないが、そこには標識がないため、最初の段階で道を間違えてしまう可能性がある。なお、綾城の敷地内には、綾の観光スポットの名称が日本語、英語、中国語、韓国語の4言語で書かれた観光案内のパネルがあった(4.2-(3))。

②については、やはり時刻表やバスの表記は日本語のみだった(4.2-(4))。のりばは一つだが、様々な行き先のバスが出ており、わかりにくいのではないかと思われる。全体的な印象として、人に聞かなければわからないところがあり、日本人にとってもわかりにくいように感じた。日本語がわからない外国人はもっと大変だろう。

### 4.3 鶴戸神宮

鶴戸神宮の所在地は日南市であるが、宮崎市からも近く、市内発の観光コースにも組み込まれることの多い景勝地である。本殿は岬にある洞窟内にあり、その珍しさもあって外国人参拝客も多く訪れる地である。鶴戸神宮への移動手段としては、電車と路線バスの二つの方法が考えられ、それぞれの方法を Web で検索すると、次のような情報が得られる<sup>7)</sup>。

#### ①電車の場合

JR 宮崎駅より JR 日南線(下り)乗車、伊比井駅または油津駅にて下車。各駅から路線バスで約 20 分。伊比井駅からは、日南行き・飫肥行き・都井岬行き路線バスで約 20 分、油津駅前バスセンターからは、宮崎駅・空港駅行き路線バスで約 20 分、それぞれ、鶴戸神宮入口にて降車。

#### ②路線バスの場合

宮交シティより空港・日南行き、飫肥行き、空港・都井岬行きのいずれかに乗車し、鶴戸神宮入口で降車。所要時間は約 70 分。

まず、①の電車利用の場合について述べる。JR 宮崎駅を起点に下車駅を考えると、鶴戸神宮よりさらに遠方の油津駅は選択肢から外れると考えられる。そこで伊比井駅で下車した場合の移動手段を調査した結果、次のようなことが明らかになった。まず、この伊比井駅は現在無人駅となっており、下車後、駅員他関係者から情報は得られない状況にある。さらに、駅から階段を下りた左手にある案内板にはバス停への誘導表示はなく、単に駅を指示するのみとなっている(4.3-(1))。但しこの案内板と伊比井駅へ向かう階段を挟んで反対側すぐにバス停があるため、案内表示に記載する必要性はさほど感じられない。

一方、先に選択肢から外した油津駅であるが、駅舎に観光案内所を併設しているなど実際に下車後の利便性を考慮すると、鶴戸神宮より南方へ遠ざかってしまうことにはなるが、伊比井駅より便利であると考えられる。しかし、どの駅を利用した方が便利か等の情報は積極的に提供されておらず、参拝客自らが情報を求めていかなければならない状況である。

ここまで電車利用について述べてきたが、実際に鶴戸神宮へ向かうためには、最寄りの 2 駅どちらかで下車したとしても、さらに路線バスに乘換える必要があり、接続の悪さ(路線バスはほぼ 1 時間に 1 便、電車は 1~2 時間に 1 便)、さらに乗換え後も約 20 分、距離にして約 10 キロのバス乗車時間を経てようやく目的地である鶴戸神宮に到着することを考慮すると、参拝客が利用する可能性は低いと考えられる。そこで、鶴戸神宮への移動手段としてはバスの利用が主たるものと判断し、②の路線バスによる移動について調査を進めた。

②の路線バスを利用した場合、降車バス停は鶴戸神宮入口鳥居（4.3-(2)）より100mほど南へ通り過ぎた位置にあり、車窓から鳥居の位置を確認していなかった場合、入口を見失う可能性がある（4.3-(3)）。さらに「鶴戸神宮入口」から鳥居までは、簡単な矢印表示を含めて案内の類は確認できず、このバス停よりも北側（宮崎市内に近い位置）には臨時バス停（4.3-(4)）もあるため、参拝客の混乱を招く可能性も否定できない。この臨時バス停前には団体参拝客向けの入口があり、大型休暇など参拝客が急増すると予想される時期には、このバス停が利用されるようである。調査当日も臨時バス停はそのまま残されており、参拝客の立場から考えると、若干紛らわしさを感じずにはいられない。

次に鳥居から神宮入口までの参道における表示を調査した。この参道は距離にして1.5キロほどあり、地元住民だけが利用するような細い路地を通り抜けた後、右手に崖を見ながらひたすら登って行かなければならない（4.3-(5)）。一人歩を進めていると不安を感じずにはいられないが、300～500メートル毎に日本語による誘導版が設置されており、参拝客を安心させてくれる材料となっている（4.3-(6)）。但し、バス停と参道から神宮入口までの間には日本語以外の言語による表示がないため、外国人参拝客にとっては非常に困難の多い道りとなるだろう。

①、②の現状を調査した結果、鶴戸神宮を訪問する手段としては、電車もバスもあまり効率的な移動手段とは言えないことが判明した。誘導表示も少なく、日本語を理解できたとしてもわかりづらい状況であるといえる。実際現地においては公共交通機関を利用して訪れている参拝客はほとんど見られず、ツアーバスを利用した団体参拝客、もしくは自家用車を利用した個人参拝客のどちらかに分類されるようである。

本稿では、主に交通機関及び、目的地までの動線上にある多言語表示について考察を進めているが、多言語表示という観点から、鶴戸神宮敷地内における表記についても調査を実施した。

鶴戸神宮敷地内における多言語表示は、一部を除けばほとんどが日本語のみで表記されている。今回の調査では、神宮内にある散策用の案内表示（4.3-(7)）や、神宮入口の「ひむか神話街道」<sup>8</sup>の看板（4.3-(8)）に見られる日英2言語表記のもの、そして英語以外の言語を用いた表示では、本殿内授受所右端に置かれた「えんみくじ」説明書きにある日韓中の3言語による通貨単位表示（4.3-(9)）、授受所横に置かれた賽銭箱にある韓国語による表示（4.3-(10)）、そして本殿を出たところにある運玉<sup>9</sup>の投げ方を書いた日韓中英4言語による表示（4.3-(11)）の3箇所が確認できた。ちなみに賽銭箱に貼られた韓国語は「행복을 불러들이는 부적（幸福を呼び入れるお守り）」と書かれており、賽銭箱横にあるおみくじを説明するには情報が不足していると考えられる。一方、運玉の投げ方を書いた表示はどの言語も同じ内容が書かれていた。

## 5. 宮崎市周辺の多言語表示状況から明らかになった点

本稿では、宮崎市周辺の多言語状況について明らかにするために、日常生活の場3箇所と観光の場3箇所を選び、主要交通機関の起点を出てこれら6地点に到着（観光）するまでの言語表示がどのようになされているかについて調べてきた。

本稿が、日常生活と観光という2つの場を設定して調査を進めたのは、多言語表示の程度に差が見られるのではないかと考えたからである。生活の場を利用する外国人の場合は、ある程度の期間、日本に居住する、あるいは、居住していることが想定され、日本語理解率も高い可能性がある。他方、観光の場に現れる外国人には一時的に日本を訪れた人も多いはずで、日本

語理解率はそれほど高くはないことが想定される。これら両者のうち、どちらが多言語表示をより必要とするかを考えてみると、観光の場の方が多言語表示が多いのではないかと予想された。だが、宮崎市周辺の場合、調査の結果からは両者に大差ないといえる。

次に、考察の結果を、宮崎市（宮崎県）がもつ地域性の観点から明らかにしておきたい。言語景観研究が先行して行われてきた大都市圏と比べると、宮崎市周辺では多言語表示は非常に少ない。外国語の表示が少ないだけでなく、ひらがな・カタカナ・ローマ字によるものもほとんど見られなかった。したがって、表示は主として日本語の中の漢字によるものと考えてよい。JR 宮崎駅では多言語表示がやや進んでいる印象をもったが、それは日本を代表する大企業である JR 九州が会社全体で行っている業務の結果であると考えられる。とはいえ、同じ JR 九州の管轄下にあっても、市内中心部を離れた青島駅では全くといってよいほど多言語表示は見られない。このように、宮崎市周辺では、一部の限られた地域・地点でのみ、多言語化が実現されていることが明らかとなった。

さらには、言語景観を表示の内容の観点から述べておくと、宮崎市周辺では、移動のために必要な路線図や時刻表が漢字を主とする日本語のみで表記されているということがわかった。この問題を解消する方策としては大都市圏の取り組みが参考となる。それは、東京メトロなどで取り入れられている数字や色分けを用いた表示である。本調査に立ち会った留学生からは、路線バスに番号をつけて欲しい、という声が上がった。一部の調査地点で見られた色分けされた路線図は、行き先だけを書いた日本語表示よりも役立つが、それよりも番号によって路線が区別され、バス前面の行き先表示にも書かれるようになれば非常にわかりやすい、という意見であった。実は、調査終了後、調査対象の宮崎交通バスには路線番号が存在することがわかった。しかし、宮崎市周辺に長く居住し、バスを日常的に利用している日本人でも、路線番号の存在を知る人は少ない。今後は、多言語表示よりも容易に実現可能なバリアフリー化、ユニバーサル化として、路線番号の認知度を高めることを提言したい。

他には、宮崎市周辺で多言語による表示が進まない理由に、公共交通機関への依存度の低さ<sup>10</sup>が挙げられる。平成 13 年の調査では、鉄道が 0.7%、バスが 2.1% という数字が出ている。つまり、今回調査対象としたような鉄道やバスはごく一部の人の移動手段でしかなく、したがって、日本人も含めて利用者が非常に少ないので、それらの場所での多言語による表示も進まないと考えられるのである。

## 6. おわりに

宮崎市中心部では、2000 年サミットを契機に、宮崎市を中心とした北部平野部において通りに名前を付け、日本語英語 2 言語による標識の設置を進めてきた。しかし、その後目立った多言語表示への動きは見られず、本稿でも明らかになったように、主要な観光スポットでさえ日本語による表示しか確認できない場合が多かった。また、観光地案内のパンフレットを作成しているにもかかわらず、配布先が限られていて、積極的な活用が実現できていないと言いがたい。さらに、英語以外の言語による表記は、専門家が翻訳しているとは断言できず、糸魚川美樹 (2006) や藤井久美子編 (2008) でも指摘されているように、正確さを欠いた情報が提供されたり、また、表示の状態も劣化したまま放置されたりしている現状も確認できる<sup>11</sup>。香港便の定期就航が再開される鹿児島では、観光地での中国語表示の必要性がいつそう強く意識さ

れている<sup>12</sup>。現在、観光立県を前面に打ち出して地域の活性化を図ろうとしている本県でも、6月からは台湾・台北との定期就航が始まる。今後は現状をいっそう詳細に認識し、改善の努力を進めていくことが必要となるであろう。さらに付け加えておけば、今回の調査を経て明らかになったことの中に、外国人に役立つ多言語表示は、実は誰（日本人の観光客、居住者の子供など）にでも役立つ情報になるということがある。これは「バリアフリー」という考え方が「ユニバーサル」へと移り変わっている動きと同様である。

本稿が今後の課題と考えるのは次の2点である。まず一つは、表示のあり方に関して、当事者である外国人の目線・見方について調査を行うというものである。5でも少し述べたが、現在の環境に慣れ親しんだ日本人の視点では見えてこないものがある。それらを留学生などの協力を得てさらに明らかにしたい。二つ目には、多言語表示について、日本人の考え方についても調べたいということがある。今後は地方でも多民族化・多言語化が進むと予測される中で、そうした状況をホスト社会はどのように受け止めるのか、この点についてもアンケートなどを利用して明らかにすることを目指す。

## 注

1 「国際化」や「共生」ということばの用いられ方については、植田晃次（2006）『「ことばの魔術」の落とし穴—消費される『共生』『共生』の内実— 批判的社会言語学からの問いかけ』三元社、29-53頁を参照。

2 例えば、金美善（2003）「言語景観からみた日本の多民族化」庄司博史・三島禎子編『国際移民の自存戦略とトランスナショナル・ネットワークの文化人類学的研究』（平成12年度～平成14年度科学研究費補助金（基盤研究B(2)研究成果報告書））175-190頁や、同（2005）「言語景観にみえる在日コリアンの言語使用—新来者の登場がもたらしたもの—」真田信治・生越直樹・任榮哲編『在日コリアンの言語相』（和泉書院）195-224頁は、在日コリアン密集地域である大阪市生野区を対象としている。

3 [http://www.pref.miyazaki.lg.jp/contents/org/chiiki/kokusai/kokusai\\_genjo/page00201.html](http://www.pref.miyazaki.lg.jp/contents/org/chiiki/kokusai/kokusai_genjo/page00201.html) 参照。

4 <http://www.miyazaki-apc.jp/overview/data.html> 参照。

5 [http://www.pref.miyazaki.lg.jp/contents/org/chiiki/kokusai/kokusai\\_genjo/page00202.html](http://www.pref.miyazaki.lg.jp/contents/org/chiiki/kokusai/kokusai_genjo/page00202.html) 参照。

6 植物園の入口には、「MIYAZAKI PREFECTURAL AOSHIMA SUBTROPICAL BOTANIC GARDEN」という表示がある（4.1-(17)）。

7 鶴戸神宮 HP <http://www.btmv.ne.jp/~udojingu/> 参照。

8 ひむか神話街道とは、神話が残された宮崎県高千穂町から高原町を結ぶ道で、100の伝承地があり、鶴戸神宮もその一つである。看板には100の伝承地全てが記載されている。

9 本殿先の崖下に亀石と呼ばれる岩があり、その岩の窪みに向けて「運玉」と呼ばれる石を投げ、入れることができれば願いが叶うといわれている。

10 [http://www.pref.miyazaki.lg.jp/contents/org/doboku/toshi/person\\_trip/tokuchou01.html](http://www.pref.miyazaki.lg.jp/contents/org/doboku/toshi/person_trip/tokuchou01.html) 参照。

11 糸魚川美樹（2006）では、各種配布物の外国語版が、専門家とは言えないボランティアの協力によって作成されているであろう現実と、そのために生じている正確さを欠いた情報の多言語化などが指摘されている。また、藤井久美子編（2008）でも、永射紀子がホテル名表記の誤りが放置されている状況を問題視している。しかし、何もない状況を考えれば、外国語版が存在していること自体に価値が見出せることも事実である。（糸魚川美樹（2006）「公共圏における多言語化—愛知県の実例を中心に—」『社会言語学』VI、53頁。永射紀子（2008）「宮崎市における言語景観状況—橋通東・西地区を中心に—」藤井久美子編『平成19年度宮崎大学「研究戦略経費」研究成果報告書「言語景観」からみた地方の多言語社会化への動き—宮崎市の場合—』、43頁。）

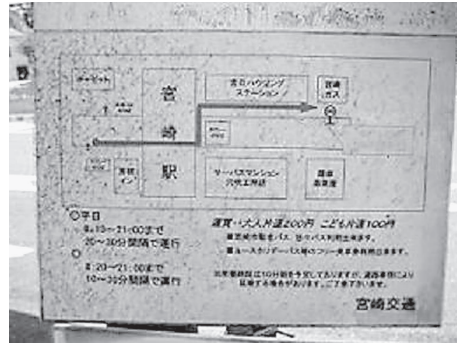
12 南日本新聞 2008年2月7日付社説

([http://373news.com/\\_column/syasetu.php?ym=200802&storyid=9075](http://373news.com/_column/syasetu.php?ym=200802&storyid=9075))。

2.1 宮崎駅



2.1-(1)



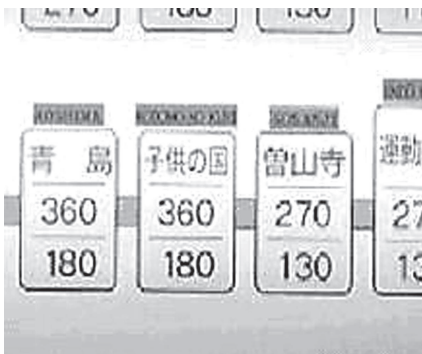
2.1-(2)

直通バス予定時刻表

平日

行先	まなび野	大学病院前	大学病院
45	20		
35			福 40
			244

2.1-(3)

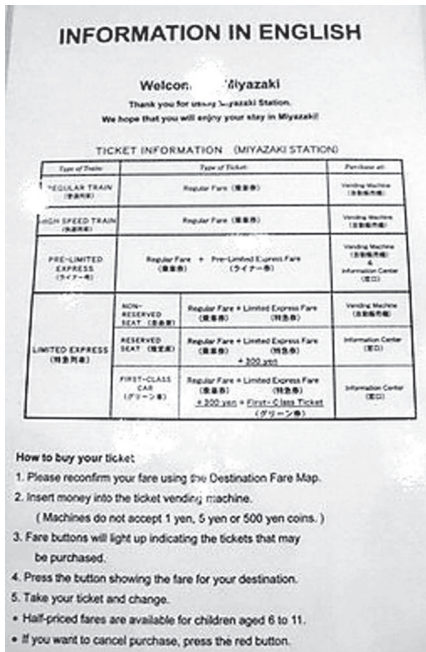


2.1-(4)

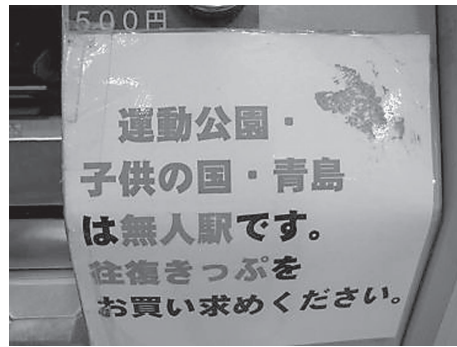
日南線

田吉	TANOSHI	200
南方	MINAMIKATA	220
木花	KIYANA	
運動公園	UNDOWOKEN	
曾山寺	SOYAMAJI	270
子供の国	KODOMONOKUNI	
青島	AOSHIMA	
折生泊	ORIOZAKI	360
内海	UCHUMI	

2.1-(5)



2.1-(6)



2.1-(7)



2.1-(8)



2.1-(9)



2.1-(11)



2.1-(10)



2.1-(12)



2.1-(13)

日南・青島方面バス時  
の駅フェニックス・日南、油津

青島	フェニックス	伊比井	日南	入戸	油津	日南	油津	日南
6:70	8:00	11:00	13:50	14:40	17:30	17:20	19:00	
7:47	7:54	8:07	8:18	8:29	8:41	8:43		5:40
8:11	---	---	---	---	---	---		
8:44	---	---	---	---	---	---		
9:07	8:14	8:27	8:38	8:49	9:01	9:03	10:03	10:23
9:15	---	---	---	---	---	---		

2.1-(14)

## 2.2 宮交シティ



2.2-(1)



2.2-(2)

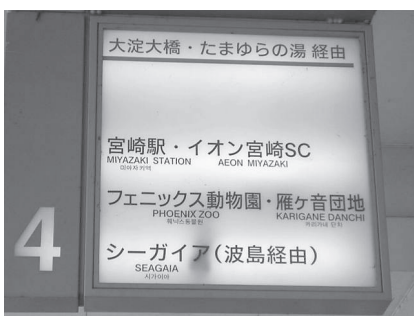




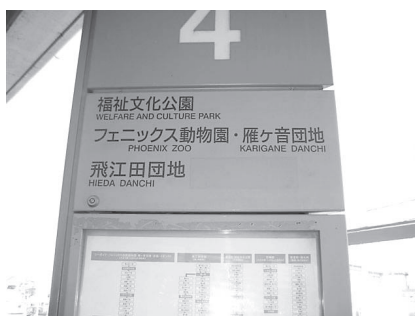
2.2-(3)



2.2-(4)



2.2-(5)



2.2-(6)



2.2-(7)



2.2-(8)



2.2-(9)



2.2-(10)



2.2-(11)



2.2-(12)



2.2-(13)



2.2-(14)



2.2-(15)



2.2-(16)

3.1 宮崎市役所



3.1-(1)



3.1-(2)



3.1-(3)



3.1-(4)



3.1-(5)



3.1-(6)



3.1-(7)



3.1-(8)



3.1-(9)



3.1-(10)

3.2 イオンモール宮崎

月曜～金曜日			
行先	宮崎駅東口 (直行)	宮交シティ 江田原・橋通り経由	生目台東5丁目 高校橋経由
7		00 30	
8	40	30	
9	00	20 40	30
10	00 20 40	30	
11	00 20 40	30	50
12	00 20 40	30	50
13	00 20 40	30	50
14	00 20 40	30	50
15	00 20 40	30	50
16	00 20 40	30	50
17	00 20 40	30	
18	00 20 50	30	
19	15 45	30	
20	15 45	30	
21	15 45	30	
22	15 45	30	

3.2-(1)



3.2-(2)



3.2-(3)

3.3 大学病院



3.3-(1)

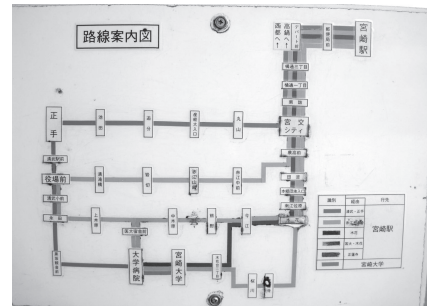


3.3-(2)

宮崎交通バス予定時刻表

行先	バス	高崎(バスステーション)	高崎(バスセンター)	高崎(バス)	高崎(バス)
07:00					50
07:30	24:43				55:40
08:00	43	55	10		13:43
08:30	19:56		25		23
09:00	49				23
09:30	88				23
10:00	116	48	55		23
10:30	66				23
11:00	27	13:45		23	23
11:30	57		15	23	23
12:00	21:55	47			23
12:30	00	14:38			23
13:00	04:41	18			23
13:30	40	08:58			23
14:00					23
14:30					23
15:00					23
15:30					23
16:00					23
16:30					23
17:00					23
17:30					23
18:00					23
18:30					23
19:00					23
19:30					23
20:00					23
20:30					23
21:00					23
21:30					23
22:00					23
22:30					23
23:00					23

3.3-(3)

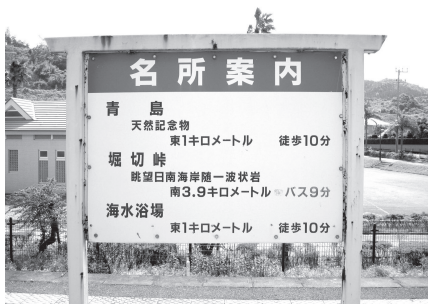


3.3-(4)

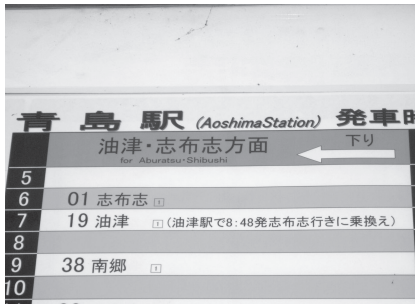


3.3-(5)

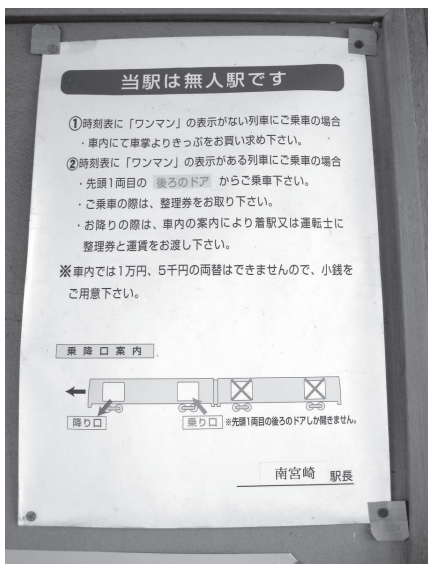
4.1 青島周辺



4.1-(1)



4.1-(2)



4.1-(3)



4.1-(4)



4.1-(5)



4.1-(6)



4.1-(7)



4.1-(8)



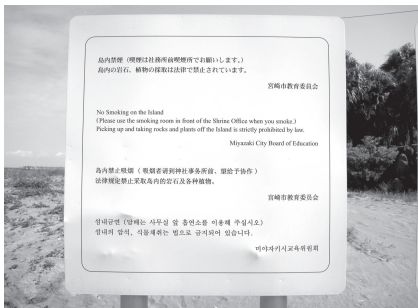
4.1-(9)



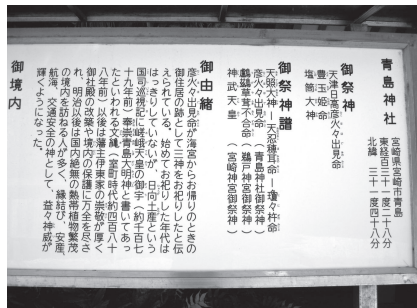
4.1-(10)



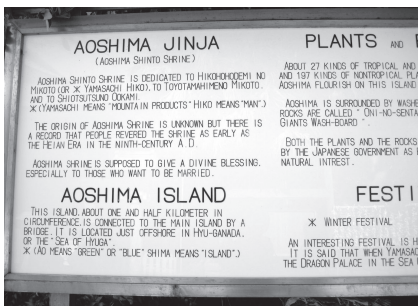
4.1-(11)



4.1-(12)



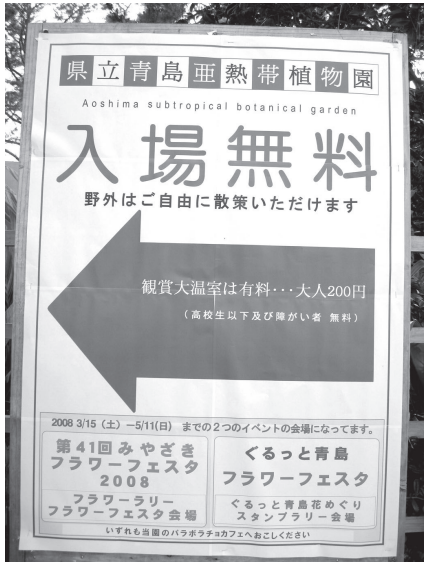
4.1-(13)



4.1-(14)



4.1-(15)



4.1-(16)



4.1-(17)

4.2 綾町周辺



4.2-(1)



4.2-(2)



4.2-(3)

路線	運送会社	上り	下り	バス	時刻	バス	時刻
10	宮崎交通	18:00	18:30	18:00	18:30	18:00	18:30
11	宮崎交通	18:00	18:30	18:00	18:30	18:00	18:30
12	宮崎交通	18:00	18:30	18:00	18:30	18:00	18:30
13	宮崎交通	18:00	18:30	18:00	18:30	18:00	18:30
14	宮崎交通	18:00	18:30	18:00	18:30	18:00	18:30
15	宮崎交通	18:00	18:30	18:00	18:30	18:00	18:30
16	宮崎交通	18:00	18:30	18:00	18:30	18:00	18:30
17	宮崎交通	18:00	18:30	18:00	18:30	18:00	18:30
18	宮崎交通	18:00	18:30	18:00	18:30	18:00	18:30
19	宮崎交通	18:00	18:30	18:00	18:30	18:00	18:30
20	宮崎交通	18:00	18:30	18:00	18:30	18:00	18:30
21	宮崎交通	18:00	18:30	18:00	18:30	18:00	18:30
22	宮崎交通	18:00	18:30	18:00	18:30	18:00	18:30

4.2-(4)



4.3 鵜戸神宮



4.3-(1)



4.3-(2)



4.3-(3)



4.3-(4)



4.3-(5)



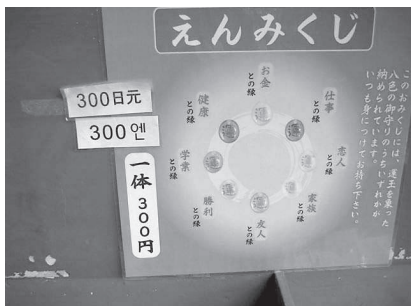
4.3-(6)



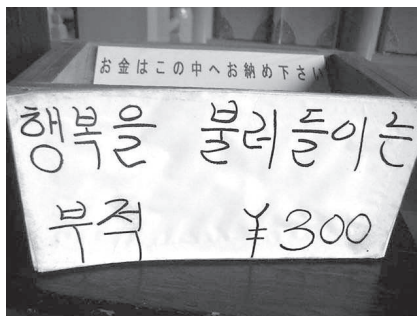
4.3-(7)



4.3-(8)



4.3-(9)



4.3-(10)



4.3-(11)